長編劇映画

おおきくなぁれ

（仮題）

製作にご参加下さい

子どもたちの輝く未来と
いつまでも続く平和のために

協同組合　ジャパン・スローシネマ・ネットワーク

悲惨を極めた戦火の時代から、７２年の歳月が流れ行きました。
あの戦争の時、数々の悲しい別れと、それなればこその輝く命のきらめきもありました。
それでもあの時代に、ひたすら子どもたちと向かい合って、その幼い命を守り通した若き保母たちの事実を知る人は少ないのではないでしょうか。

時は敗戦直前の 1944 年にさかのぼります。
東京品川区戸越には、子どもたちの命を育む小さな保育所がありました。
この頃には、戦争もいよいよ敗色が日増しに濃くなり、東京への空襲はもはや避けられないところにまで来ていました。
そんな状況を背景に、幾度にもわたった議論の末に、戸越保育所は大きな決断を下したのでした。
子どもたちの命を守るため、日本で初めての保育所の地方への疎開という決断を・・・。
しかしながら、下は 3 歳からのまだ学齢にはほど遠い子どもたち・・・保育所は保護者たちと何度にもわたって話し合いを重ね、この決断は実現に向けて動き出しました。
そして 1944 年 11 月、53 名の子どもたちと、11 人の年若き保母たちとの疎開保育所は、埼玉県平野村の荒れ寺で始まったのでした。
いつ果てるとも知れない疎開先での生活の日々は、子どもたちにとっても、又 24 時間保育を強いられた保母たちにとっても過酷な毎日でした。
それでも子どもたちは保母を信頼し、つらくともその生活の中に楽しい思い出も刻みながら育っていました。

そして、1945 年 3 月 10 日、東京大空襲の日がやって来たのでした。
遠くに臨む東京の空が赤く染まり、不安な思いで一夜を過ごした保母たちのもとに届けられた空襲被害の実相に、彼女たちは言葉もありませんでした。
一夜にして何と 10 万人にのぼる方々の命が奪われ、子どもたちの家族にもその被害はおよんでいました。

なかでもあの年、やっと 4 歳を迎えていた健ちゃんは、両親と祖父、そして、幼い妹までもが命を奪われ、一夜にして“孤児”になってしまっていたのでした。
健ちゃんにその悲しい事実を告げる保母の胸は悲しみにつぶれ、必死にその話を受け止める健ちゃんの目には大粒の涙が光っていました。
それでも戦火から子どもたちの命を守ろうと決意した保母たちは、数々の困難を乗り越えて、1945 年 8 月、1 人の子どもの命も失わずに戦争の終結を迎えたのでした。

私たちは、この事実に触れた時大きな感動を覚えました。
地域社会と家族の崩壊が語られ、子どもたちの健やかな成長に大きな影が投げ落とされている現代社会に、困難だったあの時代に、それでも子どもたちと向かい合いながら、子どもたちの命を守りきった 20 代の若き保母達の姿は、際立って今日的な意義を語るものではないかと思ったのでした。しかしながら、大事業になるであろうこの映画製作の企画と向かい合った時、力足らずの私たちの手だけではこの事業を成功に導くことが極めて困難であることも実感したのでした。
この映画製作上映の趣旨にご賛同をいただけますなら、皆様方のお手を私たちの手につないで下さい。
そして、いつかは国中に拡がる大きな「命の輪」につなげていただければ幸いでございます。
いつまでも続く平和と、子どもたちの輝く未来のために・・・。

久　保　つぎこ	原作者
田　辺　健　之	疎開保育所の子ども・健ちゃん、当時 3才
佐　瀬　玲　子	疎開保育所の子ども、当時 6才
平　松　恵美子	監督
李　　鳳　宇	プロデューサー
鳥　居　明　夫	協同組合 ジャパン・スローシネマ・ネットワーク理事長

映画「おおきくなぁれ」の製作にご参加ください。

私たちは、この映画の製作を子どもたちの命を育み、平和な未来を築く製作上映運動として、これにご賛同の方々と手を携えて前に進めて参りたいと願っております。

つきましては、以下の諸点にご了解いただけますならば、製作者の一員として製作にお加わりいただき、共に製作上映の成功に歩みをおこしていただければ幸いでございます。

ご検討の上、私たちの手に皆様方のお手を合わせて下さいます様宜しくお願い申し上げます。

1 「おおきくなぁれ」（仮題）　製作概要

【 映画製作費 】

・映画制作費　1億円
・P＆A費（配給宣伝費）　3000万円
総製作費　1億3千万円

【 製作公開スケジュール 】

2017年　8月　シナリオ決定稿
メインキャスト　決定
2018年　2月　クランクイン
4月　クランクアップ
8月　完成
秋から　全国公開開始

2 公開計画

【 第一次公開 】

全国主要都市を中心に劇場公開を行います。
観客目標は　10万人です。

【 第二次公開 】

劇場公開が終了次第、全国の市町村毎に、この映画にご賛同の方々と手を携えた公共施設を利用した上映を、ていねいに時間もかけながら展開します。
目標は、全国600ヶ所　30万人観客です。

3 製作へのご出資と製作費の回収

【 ご出資額 】

製作へのご出資は　100万円以上とさせていただきます。

【 ご出資者 】

ご出資者は、個人でも 法人でも 問いません。
又、複数の方々がお心を合わせて、共同で一口にされても構いません。

【 ご出資金の配分 】

全国公開開始後、6ヶ月毎に全国上映の観客数、興行収入のご報告を行い、それにもとづいて、製作委員会に入金された金額を、ご出資者のそれぞれの持ち分比率によって配分を行います。

公開計画の記載の目標が達成されれば、製作委員会としての製作費回収は興行のみで100％を大きく超えることとなります。

4 ご出資者名の表示及び、出資者会議

【 ご出資者名は映画エンドロールに表示します。 】

【 全国会議 】

出資者会議をクランクイン前に（明年1月迄）立ち上げたいと願っております。
その折に皆様方のご意見もいただきながら、全出資者の合意のもとに、平和への第一歩を踏み出して参りたいと存じます。

5 お申し込み方法

「製作ご参加お申込書」に必要事項ご記入の上、指定の口座に出資金をお振り込み下さい。

疎開保育園のあゆみ

1931	
1939	戸越保育所開設
1941	
1942	
1944	4月　戸越保育所の経営主体を恩賜財団大日本母子愛育会に委譲 主任保母　畑谷光代、保育所の疎開を進言 11月　上野駅から桶川へ、そして歩いて6km埼玉県平野村の妙楽寺での疎開保育はじまる
1945	8月15日　子どもたちを それぞれの親元へ 11月　孤児になった子どもの縁故者を探し最後の子どもを送り出す。疎開保育所に終止符・・・。

世の中の動き

1931	9月　満州事変
1939	
1941	12月　太平洋戦争開戦
1942	6月　ミッドウェー海戦敗戦
1944	4月　学童疎開推進要綱 疎開区域にある3年生以上の国民学校初等科の子どものみ疎開 6月　幼稚園閉鎖令（東京） これらの動きとは反対に保育所は「戦時託児所」と名前を変えて増加
1945	3月10日　東京大空襲 8月14日　熊谷空襲 8月15日　敗戦

監督：平松 恵美子（ひらまつ えみこ）

映画脚本家、映画監督。岡山県倉敷市出身。岡山大学理学部在学中、自主上映サークル岡山映画鑑賞会で活動。卒業後上京し、印刷工場等でOLを経験した後、1992年、松竹の鎌倉映画塾で映画製作を学ぶ。1993年山田洋次監督の元で『学校1』の現場に就く。以後、山田作品で助監督を務め、2012年、松竹では女優・田中絹代の監督作『お吟さま』（1962年）以来、半世紀振りの女性監督作となる『ひまわりと子犬の7日間』で監督デビューした。

○家族はつらいよ2 (2017) 脚本
○双葉荘の友人 (2016)<TVM> 監督
○家族はつらいよ (2016) 脚本
○母と暮せば (2015) 脚本
○小さいおうち (2013) 脚本
○ひまわりと子犬の７日間 (2013) 監督/脚本
○東京家族 (2012) 脚本
○おとうと (2009) 脚本
○母べえ (2007) 脚本
○武士の一分（いちぶん） (2006) 脚本
○祖国 (2005)<TVM> 脚本
○釣りバカ日誌16
浜崎は今日もダメだった♪ (2005) 脚本
○さよなら、クロ (2003) 脚本
○十五才 学校IV (2000) 脚本

企画・プロデュース：李鳳宇（り ぼんう）

1960年京都府生まれ。株式会社RESPECT(レスペ)代表。1984年にパリに留学、帰国後の1989年から現在まで200本以上の映画製作、配給を手がける。2005年『パッチギ!』でキネマ旬報ベストテン第1位、2007年『フラガール』で日本アカデミー賞 最優秀作品賞を受賞。第29回日本アカデミー賞協会特別賞、第16回淀川長治賞などを受賞している。

○健さん (2016)
○イン・ザ・ヒーロー (2014)
○歓喜の歌 (2008)
○パッチギ!LOVE&PEACE (2007)
○フラガール (2006)第61回毎日映画コンクール映画大賞、第30回日本アカデミー賞最優秀作品賞ほか
○パッチギ! (2005)第60回毎日映画コンクール映画大賞、第29回日本アカデミー賞優秀作品賞ほか
○魂萌え! (2007)
○ゲロッパ! (2003)
○さよなら、クロ (2003)
○ＭＯＮＤＡＹ (1999)ベルリン国際映画祭批評家賞
○ビッグ・ショー!～ハワイに唄えば～ (1999)
○のど自慢 (1998)
○月はどっちに出ている (1993) 第48回毎日コンクール映画大賞、第17回日本アカデミー賞優秀作品賞ほか

企画・製作：鳥居明夫（とりい あきお）

シネマとうほく代表、スローシネマネットワークを提唱し、多くの方々と手を結んだ「地域運動」として全国上映を展開する。『エクレール・お菓子放浪記』は伸べ827ヶ所で45万人の観客を動員した。他にも『じんじん』『君の笑顔に会いたくて』などがある。

昭和23年 岩手県盛岡市生まれ
昭和46年 早稲田大学法学部卒業
昭和46年 共同映画株式会社入社
平成10年 共同映画株式会社退社
平成10年 株式会社シネマとうほく設立 代表取締役社長
地域運動としての映画製作・配給にあたる
平成26年 協同組合ジャパン・スローシネマ・ネットワーク設立 理事長
東北で展開の製作上映運動の全国化を図る

○平成14年 長編アニメーション「アテルイ」
○平成16年 長編アニメーション「ハードル」
○平成23年 長編劇映画「エクレール・お菓子放浪記」
・第20回中国金鶏百花映画祭 国際部門 主演男優賞 ・新藤兼人賞 銀賞
・第8回アルメニア児童青年国際映画祭 子供国際審査員特別賞
○平成24年 長編劇映画「じんじん」
・マドリード映画祭 主演男優賞
・ゆうばり国際ファンタスティック映画祭ファンタランド大賞
○平成29年 長編劇映画「君の笑顔に会いたくて」

協同組合 ジャパン・スローシネマ・ネットワーク
〒980-0014　宮城県仙台市青葉区本町 2-17-2　ラ・セーヌビル3F（シネマとうほく内）
TEL.　022-225-0986　　FAX.　022-268-5264